

マーケットの動き（2026年8月17日～8月21日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいでした。

週前半は、日銀が早ければ9月にも利上げに踏み切るとの報道や、中東情勢の先行き不透明感の高まりを背景とした原油高を受けて、債券は売られました。その後は、米財務省が長期・超長期国債の買い戻しの増額を発表したことを受けて米長期金利が低下し、国内長期金利も上昇幅を縮め、概ね横ばいで週を終えました。

クレジット市場は、良好な投資家心理を背景に、概ね堅調に推移しました。

投資環境見通し（2026年8月）

国内長期金利の上昇圧力は残る

「骨太の方針」原案の文言修正に加え、財務相が家計や年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）をはじめとする年金基金による国内投資を後押しする方策の追求に言及したことから、政府は国内長期金利の節目とされる3%超えを容認しない姿勢を示したとみられています。一方で、消費税減税については実施に向けて与党が主導し、2040年までの総額370兆円に上る戦略分野の官民投資計画を含めて財政に対する懸念もあることから、国内長期金利の上昇圧力は残るとみえています。

	8月21日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	2.88	0.01	0.14	0.77	1.27
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	323.18	▲0.02%	▲0.90%	▲3.90%	▲5.88%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202608_outlook.pdf

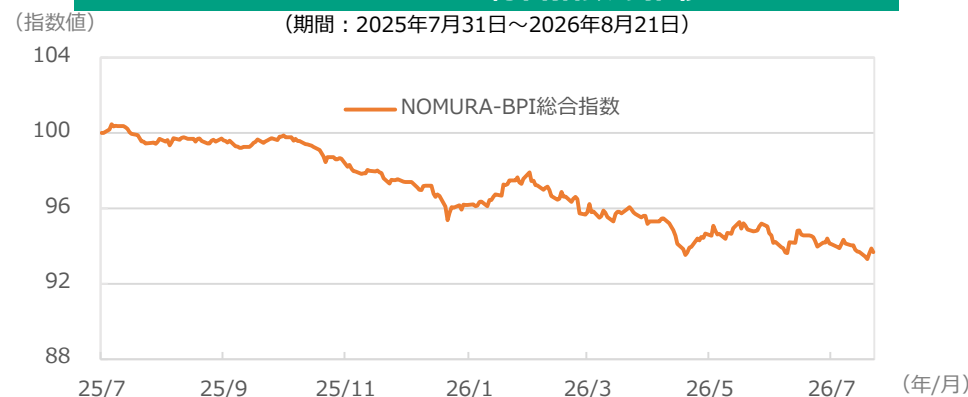
日本国債利回りの推移

（期間：2025年7月31日～2026年8月21日）



NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2025年7月31日～2026年8月21日）



※2025年7月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>